



●Answer
帰依 龍照(きえりゅうしょう)
沖縄市・コザ山球陽寺住職

旧盆Special編

琉球・沖縄 年中行事 Q&A

「なんでも!」

Q お盆の本当の意味を教えてください。私の知人は、お盆はお皿に分けてお供えするから、「皿に分ける」という意味でお盆になったといっています。

(浦添市・Kさん)

A 知人の方は、なかなかのアイデアの持ち主ですね。「皿+分=盆」ですか? 子どもたちに教えるときには、とても分かりやすい説明だと思います。ご存知のように、沖縄の年中行事は、後生事(グソグトウ)という御先祖(ウヤファーフジ)の成仏を敬うものと、御願事(ウグワングトウ)という私たちの祈願を行うものに分かれます。お盆は、後生事の年中行事に当たります。その意味は、インドの昔ばなしにルーツがあります。

今から約2500年前、インドのゴータマ・シッダールター(お釈迦さま)の弟子に、モッガラナ(目連さま)という、とても優秀な方がおられました。モッガラナは苦しい修行のち、なんでも見えない不思議な力・神通力を身につけました。モッガラナは、ある日、その神通力によって、先立つた母親を探しました。自分を大切に育ててくれた、美しく優しい母親でした。しかし生前の母は、自分の

子を愛するあまり、他人の子どもに対する思いやりが欠けていたため、地獄におちて苦しんでいたのです。成仏していることを確信していたモッガラナは驚き、師に母親を救う教えをたずねました。師は、7月15日、苦しい修行を終えて山から下りてくる僧侶たちに、食べ物や飲み物、着る物を差し上げる布施(ふせ)を行うことにより、母親が救われると諭しました。これは、御布施(おふせ)という言葉の由来でもあります。この教えに従ったことで、モッガラナの母親は成仏できました。

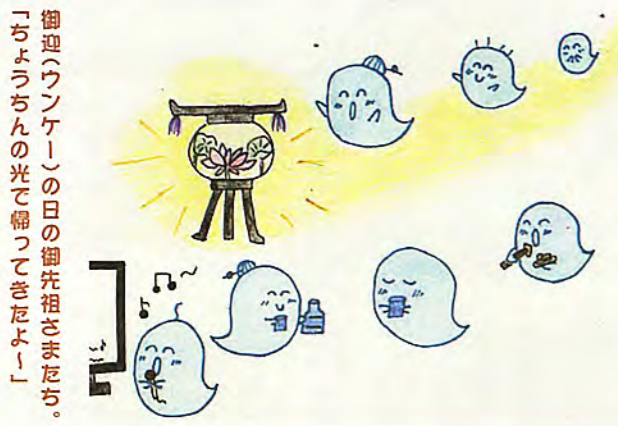
以来、中国・日本では、多くの地域で7月15日に、御先祖を救うお盆を行うようになりなりました。お盆の正式な名称は、盂蘭盆会(うらぼんえ)といい、インドでは、ウランバーナ(モッガラナの母親の苦しみの意)とも言い伝えられています。ちなみに、モッガラナは母親が救われたとき、喜びのあまり飛び跳ねて踊り回ったとか。これが盆踊りの始まりだとの言い伝えもあり、広い意味では沖縄の念仏踊(ニンブチウドウイ)であるエイサーの由来といえなくもありません。私は個人的に、お盆の意味は「皿+分=盆」でもいまいかなと思います。お仏壇のお供え物を、家族や親戚がお皿に分けて合せて、仲よく下膳(ウサンデー)している姿を御先祖が見られるとき、きっと、ほほ笑ましい安らかな思いを持たれるのではないのでしょうか?



イラスト: 帰依ひろ子

Q 本土と沖縄では、どうしてお盆の日程が異なるのですか? (石垣市・Uさん)

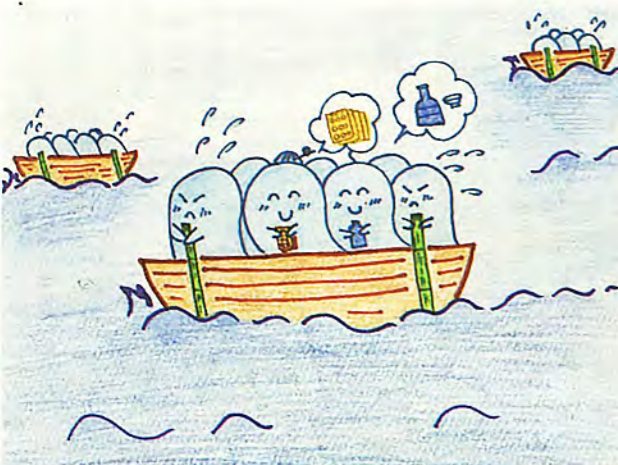
A 本土のお盆と沖縄のお盆の日程が異なるのは、お盆の7月15日(新暦)で行うか、旧暦で行うかによります。本土では新暦で行う地域が多く、このお盆のことを新盆(しんぼん)といいます(新暦の7月、あるいは8月の13日、15日に行われます)。沖縄のお盆は旧暦で行いますので、旧盆(きゅうぼん)といっています。沖縄で年中行事が旧暦で行われているのは、御先祖を敬い、昔からのしきたりを重んじているからです。本土の方々も、旧盆を意識されていますが、学校や会社の休日に合わせる必要などから、新盆に変わらざるを得なかったとの話を耳にしたこともあります。いずれにしても、旧盆は、沖縄の伝統として子や孫に受け継いでいきたい年中行事であるといえます。



「お盆(ウンケー)の日の御先祖さまたち。お盆(ウンケー)の日の御先祖さまたち。お盆(ウンケー)の日の御先祖さまたち。」

Q 嫁ぎ先が新盆(ミーボン)です。実家は高齢の母が一人で暮らしています。新盆のときは、実家といえども他の家のお仏壇にはお参りができないと聞きました。しかし、私が準備しなければ実家のお盆はできません。どうしたらいいのでしょうか? (東村・Nさん)

A 沖縄では、お葬式(クソウ)から49日(クソウ)を終えて最初のお盆のことを、新盆といっています。新盆の家は、悲しみの期間中の喪中(もちゆう)であることから、一般的なお盆の親戚回りを休み、新盆の焼香に來られる方を自宅でお迎えするという考え方があります。これが、Nさんの言う「新盆は他の家のお仏壇へのお参りができない」理由です。沖



御送(ウーケイ)の日。「さとうきびで舟を漕いであの世に戻るさ~」

縄では新盆を優先する地域が多いので、ご質問のような問題が生じてしまいます。今回のように特別な事情がある場合、沖縄の伝統的な解決策としては、お盆の御送(ウンケー)と御送(ウーケイ)の2日間嫁ぎ先の新盆を行い、中日(ナカヌヒ)に実家のお盆のお手伝い(ウツタエ)をすることが可能です。理由は、御先祖を後生(グソウ)からお迎えする御送と、後生へお送りする御送がお盆のメイン行事であり、中日は、お盆の日程の中でも比較的ゆったりとした一日だからです。この考え方は、沖縄で広く活用されています。嫁ぎ先の新盆同様、ぜひ実家のお盆のお母さんのお手伝いも頑張ってください。いい親孝行にもなりますね。

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かわい」編集部 年中行事Q&A係) 郵送、FAX、メールで受付。宛先は22面をご覧ください。